

## 岡山大学との連携

岡山大学 岩淵泰

岡山大学の教養科目「倉敷水島まちづくり論」では、「水島で暮らし、働くということ」をテーマにし、水島商店街の変遷を学んだ。みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの支援を受けた。参加人数は、6名であった。本年度は、水島商店街で暮らし、営む方からお話をうかがった。

9月29日、まちづくりフィールドワークを行った。午前中は、ミズシマ・パークマネジメント Labo 代表の古川明氏が、栄町商店街のまちあるき解説を行った。午後からは、みずしま財団の林美帆氏のコーディネートによる地域の方のお話を聞いた。ホートク印刷の野呂知恵氏からは、「水島ガッツリマップ」のデザインや商店街の変化について、また、NPO 法人彩（IRODORI）の佐藤将一氏からは、多機能型営業所の運営や障がい者の自立支援の取り組みをうかがった。倉敷市移住定住推進室からは、移住制度についての説明を受けた。学生たちの感想を以下に紹介する。

『水島商店街を歩いて、新しくおしゃれな店舗があって、昼食時には多くの人が食事をとっていたことは驚きだった。ただ、町並みは夜の街という雰囲気があり、昼間に行こうとは思えないのかと思った。』

『古い住宅がところどころ残っていたのはとても面白いと思ったのでさらに活用できるのではないかと考えた。また、公園の多さは水島の特色だとも感じた。』

『水島は思ったよりも都会で、病院、公園、鉄道が充実していてこの時代に人口も減っていないというのはとてもすごいことだと思った。また、町の将来を真剣に考えている人が多くいるということもよい材料だと思った。これから水島が発展していくためには人と人のつながり、関わりと情報の発信が必要だと思った。』

『私は小さいころから水島の街に行っていたが、水島の歴史については全く知らなかった。水島に流れている八間川の名前も知らなかったし、その川のそばで食物が作られていたこと、家がたくさん建っていたこと、商店街がライトが光って今の岡山市のような賑わいであったこと。そして今、その時の水島には完全に戻れなくても少しでも発展していくため位チームが作られており、様々なイベントが計画されていることなど、水島についてたくさんのお話を教えていただいた。』

『障がい者支援についてのお話も印象に残った。障がい者支援施設は、障がい者が社会に出られるように支援する場所であると、勝手に固定観念を持っていた。しかし佐藤さんがしている支援の方法は一味違い、社会に出て一人でやっていけるようになるまで支援をするという方法に驚いた。今まで障がい者についてなんとなくわかったつもりでいたが、何が重要かを考えられていなかった。そこを考えてきちんと一人で立てるように支援していくというのはありそうでなかった方法で、ちゃんと一人一人を見ているような感じがした。』

参加学生ひとりひとりが、水島の特徴を考え、講師から多くの学びを得た。



古川明氏(みずしま滞在型  
環境学習コンソーシアム  
会長)によるまちあるきセ  
ミナー

野呂智恵氏(ホートク印刷)を講師に  
迎えてのトークセッション  
コーディネーター:林美帆氏  
(みずしま財団)



佐藤将一氏(NPO 法人彩)  
を講師に迎えてのトークセッ  
ション